

三方五湖学習

三方五湖子どもラムサールクラブ

◇落葉の時期のブナ林の観察

平成30年5月より全7回のプログラムで実施している三方五湖子どもラムサールクラブ。これまでの4回の開催を通じてみんな仲良くなってきました。11月11日（土）には、第5回目のプログラム「落葉の時期のブナ林の観察」の開催があり7名のクラブ員が参加しました。当日は、美浜町新庄より滋賀県境のブナ林を登山。ここは三方五湖の源流にもあたります。ブナ林の植物を観察したのち、ブナ林の土壌を使って保水実験もしました。クラブ員は、観察や実験を通じて、森の役割について体感学習しました。



上：県境のブナ林を目指して登山



左：ブナ林の土壌を使って、保水力を比べる実験をしました

自然再生関連会議等開催情報

- ◆自然護岸再生部会
 - ・平成30年9月27日、11月6日…部会会議
- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・平成30年11月10日…研修会
- ◆外来生物等対策部会
 - ・平成30年9月24日、11月13日…部会会議

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

福井県立若狭高等学校のアカミミガメ研究

今年も、福井県立若狭高等学校の高校生により三方五湖をフィールドにした研究が進められています。今年も、近年三方五湖でも増えているといわれるアカミミガメの研究。高校生らは三方湖でアカミミガメを捕獲し、大きさの計測や解剖して胃内容を詳細に調べています。結果は、3月開催の全体会で発表予定です。



問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課**
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課**
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課**
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室**
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

三方五湖 ニュースレター



No. 17
平成30年12月1日発行



アカミミガメ分布調査

目次

アカミミガメ分布調査	1・2
自然護岸再生の検討 北潟湖自然再生協議会設立	2
三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、 自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち	3

このニュースレターは「平成30年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

アカミミガメ防除計画 取組開始しました

アカミミガメとは？

“アカミミガメ”の姿を見たことはありますか？ 三方五湖の湖岸でのんびり甲羅干しをしているカメ、実は、そのほとんどが外来種のアカミミガメなのです。アカミミガメは小さいときは“ミドリガメ”と呼ばれ、ペットとして飼育されることで知られています。かつては全国各地で祭りの屋台でも販売されていました。



アカミミガメ。幼体の頃は“ミドリガメ”として親しまれますが、外来種です。20~30年の寿命があるとされています。

三方五湖では昭和45年頃から確認されるようになり、近隣住民にも目にとまるようになりまし。そして平成20年頃から急速に目立つようになり、現在、湖岸で見かけるカメは概ねがアカミミガメになってしまいました。

アカミミガメの何が悪いのでしょうか

水辺で甲羅干しをするアカミミガメはのんびりですが、実はとても素早く動き、そして荒い気性を持っています。アカミミガメは雑食で、水中にすむ魚や昆虫、時には水鳥のヒナを襲うこともあり、水草を大量に食べることも知られています。また、甲羅干しの場所や産卵場所は、本来は在来種のニホンイシガメの大切なすみかでもあり、アカミミガメが増えるとニホンイシガメはすめなくなります。さらに、アカミミガメはサルモネラ菌を持つこともあり、人への感染が心配です。



アカミミガメは、長く鋭いツメを持っており引っかけると怪我をします

鋭いツメで、人に怪我をさせることもあります。外来種のアカミミガメが増えることで、在来の生態系、農業や漁業、人の生活にも影響を及ぼすことが心配です。

三方五湖でのアカミミガメ対策

三方五湖でのアカミミガメは、まだ、どこにどのように分布しているのかははっきり分かっていません。そこで、平成30年度に入り、環境省によってアカミミガメの分布調査が行われました。

現在、調査結果のとりまとめが進められているところですが、これまでのところ、アカミミガメは久々子湖、水月湖、菅湖、三方湖に生息しており、特に三方湖の湖岸に多く分布していることが分かってまいりました。

平成30年度内には、調査を行った環境省の支援を受けながら、外来生物等対策部会が中心となり、三方五湖でのアカミミガメ防除計画をとりまとめる予定になっています。



環境省の事業による三方五湖でのアカミミガメの調査。年度内に三方五湖での生息状況と今後の対策計画がまとめられる予定です

◆ アカミミガメ防除普及ツールがあります ◆

アカミミガメの拡大は、個人が飼育していたペットが野外に放たれることが大きな要因になることが想定されており、普及啓発が重要です。環境省からは普及啓発用のポスターや小中学校での授業や講習会で使える資料が無償提供されており、これが活用できます。

[環境省ホームページ]
<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/tool.html>



自然護岸再生の検討が進んでいます

自然護岸再生部会では、部会を構成する漁業協同組合、研究者、行政関係者らが集まり、平成28年度より護岸の再生を検討する現地・室内でのワークショップを重ねてきています。平成30年度も9月27日、11月6日に会合を開催し、水月湖、菅湖、はず川を中心に護岸再生の検討をしました。

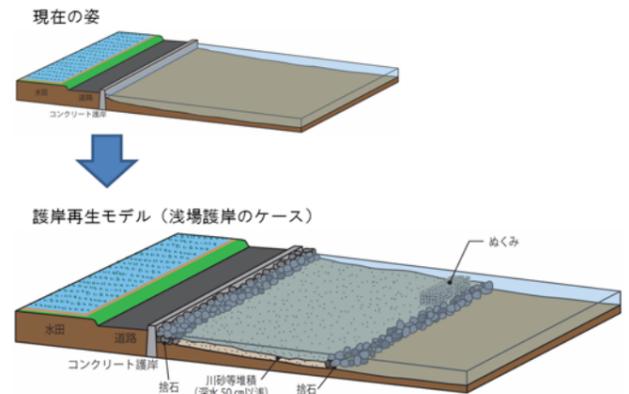
ワークショップでは、三方五湖のかつての湖岸の様子を関係者皆で現地を確認しながら、問題や課題などを話し合い、今後の護岸再生のビジョンをとりまとめる作業を進めています。これまでの議論によって、「護岸を再生・改良しようとする際には、既往の護岸（コンクリート製）を活かし、防災・減災機能を確保しながら、湖が再生しうる生態系機能を向上させる」などの護岸再生の



漁業関係者、研究者、行政関係者らに参加する護岸再生のワークショップ。写真は久々子湖での開催時の様子(平成28年6月)

方針案や、それぞれの湖で保全の目標とする種・種群、護岸する際の留意点などの整理が進んでいます。自然護岸再生部会では、平成30年度末には、三方五湖の護岸再生検討書を取りまとめる計画です。

自然護岸再生部会会議の様子



護岸再生のモデルの検討の例。図は、久々子湖での護岸再生時に留意することなどを示しています。現在、水月湖、菅湖、三方湖についても同様に検討を進めています ※なお、この図は検討中のものです。今後検討を深めて精緻化が進められる予定です

北潟湖自然再生協議会が設立されました

平成30年11月24日(土)、福井県立芦原青年の家(あわら市北潟)にて、北潟湖自然再生協議会の設立総会が開催されました。北潟湖自然再生協議会は、三方五湖自然再生協議会と同様に、自然再生推進法(平成14年法律第148号)に基づき設置される法定協議会で、全国で26番目、福井県下で2つめの設置となります。

設立総会では、佐々木康男あわら市長のほか、福井県安全環境部から清水英男部長、環境省中部地方環境事務所より酒向貴子統括自然保護企画官の来賓あいさつがあった後、事務局(あわら市)から設立趣旨が説明され、規約の承認がありました。その後、会長に青海忠久福井県立大名誉教授、副会長に組頭五十夫氏と佐賀繁次氏が選任されました。同協議会では、平成30年度末までに北潟湖自然再生全体構想をまとめ、翌年度には自然再生事業実施計画をまとめるとのことです。

北潟湖は、三方五湖と同様に日本海に接する汽水湖で、従来より交流を深めてきたところ。設立総会には、三方五湖自然再生協議会関係者から応援に出席された方もおられました。今後、交流をさらに深めながら両地域での自然再生が発展することが期待されます。



会長には三方五湖自然再生協議会副会長でもある青海忠久県立大名誉教授が選任されました(左)。当日開催のフォーラムでは子供たちの発表やポスター展示もありました(右)